

ジャガイモの生長観察

二本松市立渋川幼稚園（福島県二本松市）

[5 歳児]

5月始め、ジャガイモの種イモを植えた。早く大きくなるように声に出して祈る姿が見られた。

5月21日

週が明けると、大きくなっているか観察する。生長している様子に気付くと、「ジャガイモの葉っぱ、大きくなってたよ！」「僕が最初に見付けた！」と、保育者や友達に知らせ、思いを共感する。



また大きくなっているね！

6月12日

A児が、「なんかお花みたいなのあるよ」と花が咲いたことに気付く。「どれどれ」と保育者が一緒に見に行くと、B児も興味をもつ。A児が「ほら、これだよ」と教えてくれ、B児も「本当だ」と言って他にも花がないか2人で探す。

ここにもあったよ！



6月21日

C児が、葉っぱにたくさん虫が付いているのを見付けた。「何の虫だろう」と不思議に思い、図鑑で調べると、テントウムシの幼虫であることが分かり、「テントウムシの幼虫だった」と友達にも教えていた。他の幼児も葉っぱに付いているのを見付け、「ここにもいた！」と喜んでいた。

降園時に、クラス全体にC児の発見を知らせる。

不思議な虫を見付けたよ！



6月29日

当番の仕事として水遣りをしており、園長先生から、「葉っぱにお水がかると、お日様に当たって焼けちゃうから、葉っぱをよけて、水がからないようにあげてね」と教えてもらって、葉っぱをよけて上手にあげられるようになった。

こうやってあげるんだよね！



7月上旬

あんなに大きくなっていた葉っぱが枯れてしおれてしまった。子どもたちは、「枯れてきちゃった」「何でだろう」と心配していた。「水、ちゃんとあげてたのにね」「お水をあげすぎたのかな」という考えも出て、水遣りを休むことにした。

枯れちゃったね...
ジャガイモどうなっているかな？



7月20日

ジャガイモがどうなっているか、掘ってみることにする。保育者が、「どうなっているかな？」と聞くと、「いっぱいなってると思う」手を広げて、「こんなに大きいかも」と話し、期待を膨らませていた。

すごーい！いっぱい出てきたよ！



まだあるかな？
掘ってみよう！

4歳児も見に来て、「すごーい！」と驚いていた。子どもたちは、「こんなに掘れたよ」と得意気な表情で見せ、収穫を喜ぶことができた。「カレーパーティーのカレーに入れようね」と話すと、「いつあるの？」と楽しみにしていた。



みどころ

日々熱心に栽培物と関わっている姿を写真と共に振り返ることで、保育者は子どもが注目していることを把握できます。この事例では、「気付いた」「見付けた」という状況だけでなく、写真を添えることでしゃがんで観たり友達と一緒に観たりした子どもの姿が分かります。生き物のような動きのない植物では、日々の変化や生長を観察する興味をもち続けることが大切です。育てながら観察を重ねることで、今見ているものが、以前とどのように違っているのかを感じ取り、これからの関わり方を考える手がかりを得ることに繋がる「科学する心」が育まれていきます。